

## 第2章1節

### 保健師国家試験の状況設定問題の出題内容・形式の分析および評価と作問への提言

～ 問題分析とフォーカスグループインタビュー調査を通して ～

東邦大学 岸 恵美子

聖隷クリストファー大学 鈴木 知代

東京医科大学 鈴木 良美

帝京平成大学 高橋 郁子

新潟青陵大学 坪川 トモ子

#### 研究要旨

本研究の目的は、保健師国家試験における新たな出題方法や形式、出題内容に関する課題を明らかにすることである。研究方法は、過去3年間の保健師国家試験の状況設定問題全104問の中から、正解率、識別指数をもとに「良問」あるいは「改善により良問となりうる問題」を9状況24問抽出し、本分担任が各問題の意図の明確さ、難易度、各選択肢の基本的知識の根拠、選択肢の出題の意図等について分析した。その後、保健師学校養成所で教育に携わる教員を対象にフォーカスグループインタビューを行い、出題内容・形式の分析および評価を行った。9状況24問題の問題分析の結果から良問は改善問題と比較し、全ての問題で出題の意図が明確で、難易度が適切であり、タキソノミーⅡ以上の割合が高かった。一方で、正答肢・誤答肢いずれにおいても、必要な基礎的知識の根拠は教科書に記載されているものの、エビデンスがある知識ではない広く認められた知識や手順等であることなど、出題形式、出題内容などを総合的に評価すると、良問と言える問題は少なく、すべての問題に改善の余地があると考えられる。

今後の課題として、保健師の実践能力として何を問うのかという出題の意図を明確にし、エビデンスのある知識を基に提示する情報と内容を吟味するとともに、保健師活動の実践知であるガイドラインや報告書などを根拠とした問題作成や保健師の実践能力を問うための出題形式の検討が必要である。

#### 1. 研究目的

本分担任は、過去3年間の保健師国家試験の状況設定問題の内容の適切性、習熟度や問題構成、出題形式等の妥当性について、保健師学校養成所で教育に携わる教員を対象にフォーカスグループインタビューを行い、出題内容・形式の分析および評価を行った。それにより、保健師国家試験における新たな出題方法や形式、出題内容に関する課題を明らかにすることを目的とした。

#### 2. 研究方法

##### 1) 問題分析

はじめに、過去3年間の保健師国家試験の状況設定問題全104問の中から、正解率・識別指数をもと

に「良問」あるいは「改善により良問となりうる問題（以下、改善問題）」を、9状況24問抽出した。抽出基準は、良問は識別指数と正解率が高い傾向にある問題、改善問題は識別指数が低い傾向にある問題とした。

次に抽出した24問題に対して5名の研究協力者が各問題の意図の明確さ、難易度、各選択肢の基本的知識の根拠、選択肢が出題の意図における基礎的知識になっていないか、基礎的知識がなくても選択できるようになっていないか等を個々に評価したうえで、評価結果を全員で協議し、良問14問、改善問題10問を抽出した。

##### 2) フォーカスグループインタビュー

### (1) 対象

研究参加者は、保健師基礎教育課程の教員とした。リクルートは、機縁法により、保健師学校養成所として、大学院、大学、専攻課程など養成所が偏らないようにした。研究参加者となる教員宛にインタビュー開催日を提示した上で同意書、同意撤回書、インタビューで検討予定の問題、インタビューガイドを同封し送付した。

参加意思を示した研究参加者に対し、事前に内容を検討し、職場同僚の意見も尋ねておくよう依頼した。

### (2) データ収集方法

抽出した9状況24問題について、研究参加者を1グループにつき5～6名の3グループに分けてフォーカスグループインタビューで意見を収集した。フォーカスグループインタビューでは、1グループあたり1名から2名の研究協力者がファシリテータとなり、インタビューガイドに則って3状況8間についてインタビューを行った。インタビュー内容は問題の意図の明確さ、難易度、適切性、現実性、臨地において必要な知識を問うているか、単問形式で実践能力を評価できているか、文章の長さを読み取りや判断にかかる時間との関連、改善点等であった。

### (3) 分析方法

インタビューの内容は録音ならびに筆記で記録し、録音データの逐語録と筆記録をデータとして、質的記述的に内容分析を行った。

### (4) 倫理的配慮

研究の主旨、方法、協力依頼内容、倫理的配慮等を記載した文書とインタビュー当日に口頭で説明を行い、文書による研究参加者の同意を得てからインタビューを実施した。本研究は聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認を受けて実施した（承認番号：19-A030）。

## 3. 研究結果

### 1) 問題分析

#### ①分析した問題の総数と抽出した問題

分析した問題の一覧を表1に示す。分析した問題は、第103回の午前41～43、午前52～53、午後42～44の8間、第104回の午前41～43、午後39～41、午後45～47の9間、第105回の午前47～49、午前52～53、午後41～42の7間の計9状況24間であった。

#### ②問題分析の結果

問題分析の結果を表2に示す。分析対象問題は24間で、良問が14問(58.3%)、改善問題が10問(41.7%)であった。タキソノミーの分類では、Iの単純想起型が2問、I'の推定型が4問、IIの解釈型が10問、IIIの問題解決型が8間であり、解釈型が最も多く、次いで問題解決型であった。良問では、タキソノミーII以上が85.7%であったが、改善問題ではII以上は60.0%であった。また、出題の意図は、良問では全ての問題が明確であり、改善問題では明確な問題が5問と半数であった。難易度については、良問では12問(85.7%)が適切であったが、改善問題では、適切が6問(60.0%)、不適切が4問(40.0%)で、不適切であった4間の理由は、すべてが「簡単すぎる」であった。

#### ③正答肢に関する評価の概要

正答肢に関する評価を表3に示す。正答肢数は25であったが、評価者5人の評価結果を集計しているため、複数回答を除き総数は125である。

正答肢を選ぶために必要な基礎的知識の根拠は、「エビデンスがある知識ではないが、手順等として教科書に記載されている」が59.4%と最も多く、次いで「エビデンスがある知識ではないが、広く認められた理論であり、教科書に記載されている」が23.1%であった。難易度は適切が76.8%、不適切が23.2%であったが、不適切の理由は、簡単すぎるが最も多かった。また正答肢が基礎的知識そのものになっていない適切な正答肢は88.0%、基礎的知識がなくても選択できるようになっていない適切な選択肢は、84.0%と8割以上を占めた。

表1 抽出した問題一覧

問題番号	良問/改善	国家試験問題			選出根拠 ①～③ (改善のみ)	設問文
1	良問	103	午前	41	正解率と、識別指数が高い傾向にある問題から、保健師の知識・能力を問うとすると研究者で判断した問題	地震発生30分後、救護所である小学校に駆け付けた保健師の最も適切な対応を問う。
2		103	午前	52		保育所との連携システム構築の検討で、保健師が最初に取り組むこととして適切な内容を問う。
3		103	午前	53		保育所との連携システム構築に取り組み3か月後、事業を計画するにあたり最初に検討する内容を問う。
4		103	午後	43		気になる児について、専門機関から学校に情報提供の依頼があったときの養護教諭の対応として適切な内容を問う。
5		104	午前	42		1.6健診未受診の家庭訪問で、ドメスティック・バイオレンス<DV>のスクリーニングとして行う質問で最も適切な内容を問う。
6		104	午後	45		A市の概要が示され、国民健康保険加入者の生活習慣病を改善するために見直すべき計画について問う。
7		104	午後	46		A市の特定健診の方式が示され、ストラクチャー評価に用いる指標で適切なものを問う。
8		104	午後	47		受診率が低いB地区の健康づくりを活性化するために、企画をともに検討する者で最も適切な者を問う。
9		105	午前	48		構想区域B・Cの必要病床数推計値の表から、区域Cで行うアンケートの質問項目として優先度が高いものを問う。
10		105	午前	49		構想区域Cで、在宅医療と介護の提供体制構築のため、市町村保健師と初回に検討する内容で優先度が高いものを問う。
11		105	午前	52		A市の概要から、生活習慣病の重症化予防対策を行うのに最も優先度が高い集団を問う。
12		105	午前	53		A市の概要から、生活習慣病の重症化予防のための事業計画立案で、目標設定指標で最も優先されるものを問う。
13		105	午後	41		精神科に通院中のAさん宅への家庭訪問で、Aさんの状況を確認する最も優先度が高いものを問う。
14		105	午後	42		精神科に通院中のAさん宅への家庭訪問で、Aさんへの父親の対応に関する保健師の支援で最も適切なものを問う。
15	改善により良問となり得る問題	103	午前	42	③	地震発生当日に町内に避難所が設置され、その1週後、保健師の活動で優先度が高い内容を問う。
16		103	午前	43	②	地震発生2か月後仮設住宅が設置され、住民の4割は仮設住宅、保健師の活動で最も適切な内容を問う。
17		103	午後	42	①	忘れ物や欠席が多く気になる児について、養護教諭や担任などが集まって対応を協議する根拠となった状況を問う。
18		103	午後	44	③	忘れ物や欠席が多く気になる児への対策として、緊急に対応する必要性の高い児童を抽出するための最も適切な方法を問う。
19		104	午前	41	①	1.6健診未受診の家庭訪問で、発達や母の状況の他、保健師が追加で確認するBちゃんの状態で優先度が高いものを問う。
20		104	午前	43	③	1.6健診未受診の家庭訪問で、母の腹部に大きなあざがあったときの保健師の対応で優先度が高いものを問う。
21		104	午後	39	③	保育所長から感染症の発生疑いの相談を受けた保健師が聞き取る情報で優先度が高い内容を問う。
22		104	午後	40	③	園児2人の腸管出血性大腸菌感染症の発生届が病院から提出されたときに、保健師の対応で優先度が高い内容を問う。
23		104	午後	41	①	腸管出血性大腸菌感染症発生後、新たに2人の園児が下痢症状で欠席した場合の保育所への対応で適切な内容を問う。
24		105	午前	47	②	A県および構想区域B・Cの2025年の必要病床数推計値の表が示され、その説明で正しいものを問う。

①正解率が高く識別指数が低い問題

問題タイプ分け ②正解率がやや低く、識別指数が高い問題

③正解率が低く識別指数も低い問題

#### ④誤答肢に関する評価の概要

誤答肢に関する評価を表4に示す。誤答肢数は76であったが、評価者5人の評価結果を集計しているため、複数回答を除き総数は380である。

誤答を除くために必要な基礎的知識の根拠は、「エビデンスがある知識ではないが、手順等として教科書に記載されている」が66.1%と最も多く、次いで「エビデンスがある知識ではないが、広く認められた知識であり、教科書に記載されている」が22.8%であった。出題の意図と一貫している誤答肢は、95.8%を占めた。難易度は適切が74.2%、不適切が25.8%であり、不適切の理由は、簡単すぎるが8割以上を占めた。また、誤答肢は基礎的知識がなくても選択できるようになっていない適切な誤答肢は84.7%であった。

#### ⑤状況文に関する評価の概要

状況文に関する評価を表5に示す。状況文は24であったが、評価者5人の評価結果を集計しているため、総数は120である。

基礎的知識に照らして正解を判断するために提示されている情報と内容が適切なものは90.8%を占め、情報が不足しているため不適切が8.3%と約1割に過ぎなかった。また、判断に必要なだが不自然な(現実的ではない)情報はないが100%であった。さらに、問いの正解を導くために必須ではないが現実の実践では判断指標としてセットで収集されるであろう情報があるものは5.0%、正答肢以外の選択肢を成立させる、または魅惑的にするための情報があるものは2.5%といずれも少なかった。

表2 問題分析の結果

分析対象問題数合計=24(14+10)					
問題数	数	(%)			
a: 良問	14	58.3			
b: 改善により良問となりうる問題	10	41.7			
a, b以外の問題	0	0			
合計	24	100.0			
タキソミー	a: 良問 数	(%)	b: 改善問題 数	(%)	合計 数 (%)
I	0	0	2	20.0	2 8.3
I'	2	14.3	2	20.0	4 16.7
II	7	50.0	3	30.0	10 41.7
III	5	35.7	3	30.0	8 33.3
合計	14	100.0	10	100.0	24 100.0
出題の意図は適切か	a: 良問 数	(%)	b: 改善問題 数	(%)	合計 数 (%)
明確	14	100.0	5	50.0	19 79.2
曖昧	0	0	5	50.0	5 20.8
合計	14	100.0	10	100.0	24 100.0
難易度は適切か	a: 良問 数	(%)	b: 改善問題 数	(%)	合計 数 (%)
適切	12	85.7	6	60.0	18 75.0
不適切	2	14.3	4	40.0	6 25.0
簡単すぎる	1		4		5
難しすぎる (高度な知識が必要である)	1		0		1
難しすぎる (設問文が難解で理解が難しい)	0		0		0
合計	14	100.0	10	100.0	24 100.0

※改善問題=改善により良問となりうる問題

表3 正答肢に関する評価

正答肢数(25個) × 評価者数(5人)	
正答肢を選ぶために必要な基礎的知識の根拠は以下のいずれにあたるか	数 (%)
①事実(解剖・病態生理学、薬理学)	4 2.5
②研究的に確かめられたエビデンスがある知識	0 0
③②ではないが、広く認められた理論であり、教科書に記載されている	37 23.1
④②ではないが、手順等として教科書に記載されている。(慣習・経験的知識)	95 59.4
⑤法令や制度、綱領として成文化されている。(慣習・経験的知識)	24 15.0
⑥①～⑤には当たらない患者の希望・心理・倫理に関する知識	0 0
総数	160 100.0
難易度は適切か	数 (%)
適切	96 76.8
不適切	29 23.2
簡単すぎる	24
難しすぎる(高度な知識が必要である)	5
難しすぎる(設問文が難解で理解が難しい)	0
総数	125 100.0
正答肢が出題の意図における基礎的知識そのものになっていないか	数 (%)
なっていない(適切)	110 88.0
なっている(不適切)	15 12.0
総数	125 100.0
正答肢は基礎的知識がなくても選択できるようになっていないか	数 (%)
なっていない(適切)	105 84.0
なっている(不適切)-語尾だけで分かる	7 5.6
なっている(不適切)-病名だけで分かる	0 0
なっている(不適切)-その他	13 10.4
総数	125 100.0

表4 誤答肢に関する評価

誤答肢数(76個) × 評価者数(5人)	
誤答を除くために必要な基礎的知識の根拠は以下のいずれにあたるか	数 (%)
①事実(解剖・病態生理学、薬理学)	15 3.3
②研究的に確かめられたエビデンスがある知識	0 0
③②ではないが、広く認められた理論であり、教科書に記載されている	103 22.8
④②ではないが、手順等として教科書に記載されている。(慣習・経験的知識)	298 66.1
⑤法令や制度、綱領として成文化されている。(慣習・経験的知識)	35 7.8
⑥①～⑤には当たらない患者の希望・心理・倫理に関する知識	0 0
総数	451 100.0
出題の意図と一貫しているか	数 (%)
適切(一貫している)	364 95.8
不適切(一貫していない)	16 4.2
総数	380 100.0
難易度は適切か	数 (%)
適切	282 74.2
不適切	98 25.8
簡単すぎる	85
難しすぎる(高度な知識が必要である)	13
難しすぎる(設問文が難解で理解が難しい)	0
総数	380 100.0
誤答肢は基礎的知識がなくても選択できるようになっていないか	数 (%)
なっていない(適切)	322 84.7
なっている(不適切)-語尾だけで分かる	0 0
なっている(不適切)-病名だけで分かる	18 4.7
なっている(不適切)-その他	40 10.5
総数	380 99.9

※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない

表5 状況文に関する評価

状況数(24個) × 評価者数(5人)	
基礎的知識に照らして、正解を判断するために提示されている情報と内容は適切か	数 (%)
適切	109 90.8
不適切-多すぎる	1 0.8
不適切-不足している	10 8.3
総数	120 99.9
判断に必要なだが不自然な(現実的ではない)情報はないか	数 (%)
ない	120 100.0
ある	0 0
総数	120 100.0
問いの正答を導くために必須ではないが現実の実践では判断指標としてセットで取集されるであろう情報はるか	数 (%)
ない	114 95.0
ある	6 5.0
総数	120 100.0
正答肢以外の選択肢を成立させる、または魅力的にするための情報はるか	数 (%)
ない	117 97.5
ある	3 2.5
総数	120 100.0

※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない

## 2) フォーカスグループインタビュー

フォーカスグループインタビューの結果を表6に示す。グループごとの研究参加者とインタビュー時間は、1グループは6名で98分、2グループは6名で78分、3グループは5名で88分、インタビュー時間の平均は88分であった。以下、インタビュー項目に沿って結果を記述する。

### ①出題の意図は明確か

良問、改善問題、どちらにも出題の意図が明確・不明確であるという意見があり、必ずしも良問であるから出題の意図が明確であるという意見ではなかった。また、結果的にシンプルで、医学的なロジックで説明しやすい問題しか出題できないという、国家試験の出題形式の限界があるのではないかという意見もあった。

### ②難易度は適切か

全体として難易度は適切という意見と、難易度は低いという意見があった。難易度が低いという理由として、誤答肢が容易に選択できるので、消去法で正答肢を選択でき難易度が低くなるという意見があった。

### ③正答肢を選ぶ、あるいは誤答肢を除くために必要な知識について根拠は明確か

知識の根拠についての意見は少なかったが、「不登校」など、言葉の定義が明確に教科書等に記載されていない内容については、出題することが妥当であるのかという意見があった。また、正答肢の根拠が明確であっても、優先度を問う問題では状況によって優先順位が変わることや、同時に情報収集することもあり判断が難しいという意見があった。

### ④設問は臨地において必要な知識を問う問題となっているか

発言としては少なかったが、出された意見の中では、ケアシステム構築やドメスティック・バイオレンス等の複雑な問題への対応については、保健師の実践能力として重要であり、必要な知識を問うているという意見があった。

### ⑤看護基礎教育の教授内容から逸脱していないか

看護基礎教育の教授内容からは逸脱してはいないが、「ここまでは教員として教授していない」「学生の経験、実習体験、教授内容に左右される」との意見があり、それに対し「教育する側のスタンダード(基準)とは(何か)」や、「実習で経験できないことは演習で学んでいる」との意見が出された。また、教授内容が不十分でも、保健師として従事したときに対応すべき内容であることを考えると、出題することは適切であるとの意見もあった。

### ⑥改善すべき内容と具体的にどのように改善したらよいか

問題毎に状況に合わせた具体策が提案された。状況設定を現実味のあるものとする改善案や、状況文の情報に不足している内容、状況文に沿った選択肢の作成などが提案された。また、問題の構成についての意見も出された。

### ⑦選択肢が出題の意図の原則そのものとなり、個別状況が不要ではないか

選択肢が出題の意図の原則そのものになっているという意見はなかったが、状況文がなくても正答肢が選択できる問題があり、一般問題としても出題が可能という意見があった。

### ⑧正答肢が状況に関する知識がなくても選択できるようになっていないか

良問、改善問題、どちらにも状況文がなくても回答が可能な、一般問題としても出題が可能な問題があるという意見が出された。また、データを表で示した問題では、算数ができれば正解できる問題があり、表の解釈や解釈に基づく保健師の実践活動を問う問題を作成する必要があるという意見が出された。

### ⑨設問文は連問ではなく単問の形式で実践能力を評価できているか

連問が独立した問題となっていないため、単問の形式で実践能力を評価できていないのではないかの意見が出された問題が1問あったが、検討した結果、単問の形式で実践能力評価できている、と結論付けられた。

### ⑩状況文は現実的かつ多すぎではないか

良問、改善問題、どちらにも臨地での対応と異なる状況が出題されているという意見が一部あったが、状況文が多すぎるという意見はなかった。状況文が現実的ではないという意見としては、例えば、感染症の初動対応では実際には同時に複数の情報を把握するため、優先度を問う問題は適切ではないのではないかという意見が出された。

#### ⑩問題の情報量と回答に要する時間の関係は適切か

おおむね適切という意見であったが、正答肢・誤答肢の根拠を明確にするには、状況文には複数の情報と内容を含める必要があり、情報量が多くても良いという意見が一部出された。

## 4. 考察

9 状況 24 問の問題分析の結果から、良問と改善問題を比較すると、良問では全ての問題で出題の意図が明確であり、約 9 割が難易度については適切であり、約 9 割がタキソノミーⅡ以上であった。また正答肢では、難易度は適切が約 8 割、基礎的知識そのものになっていない適切な正答肢が約 9 割を占め、概して適切であったと評価できる。また誤答肢についても、難易度や適切性については正答肢よりも低いものの、おおむね適切であると評価できる。

一方で、正答肢・誤答肢いずれにおいても、必要な基礎的知識の根拠として、「エビデンスがある知識ではないが、手順等として教科書に記載されている」と「エビデンスがある知識ではないが、広く認められた知識であり、教科書に記載されている」が合わせて 8 割以上を占めており、事実や研究的なエビデンスに基づく知識によるものはほとんどないことが明らかになった。また状況文については情報と内容が適切であるが 9 割を超えているが、現実の実践では判断としてセットで収集される情報や正答肢以外の選択肢を成立させる魅力的な情報はほとんどなかったことから、状況文に含める情報と内容の検討が必要であるととともに、より明確なエビデンスから正答肢を導けるようにする選択肢の検討が必要であると考

えられた。

フォーカスグループインタビューでは、「良問」「改善問題」として本分担任が抽出した問題について意見を求めたが、本分担任が良問と評価した問題であっても、必ずしも良問という意見に集約されない問題が散見された。また実習を含め教授内容が全国で共通しておらず、学生の習熟度が不十分な問題が出題されているという意見が出された。良問であっても出題の意図が不明確である問題があったことや、改善問題であっても出題の意図が明確である問題があり、出題の意図が明確かどうかだけではなく、今回の問題分析の視点である、内容の適切性、習熟度や問題構成、出題形式等の妥当性などで総合的に判断すると、すべての問題において改善の余地があるともいえるだろう。

特に、本分担任が出題の意図が明確で保健師として必要な実践能力を問うために適切であると判断し、良問として抽出した問題においては、状況文に沿った選択肢が作成されておらず、表の数学的解釈のみで正答が導けることや、一般問題でも成立する問題となっており、誤答肢が容易に選択できることなどから、結果的に難易度が低下していると指摘された。厚生労働省の保健師助産師看護師国家試験制度改善部会は、保健師の問題について、「地域診断における判断や介入の優先度を問う問題などが適しており、地域診断に必要なグラフ化されたデータや表などをもとに保健師に必要な判断力を問うような出題が望ましい」と報告している（厚生労働省，2016）。保健師の実践能力として、データの解釈は不可欠であるが、計算のみで容易に正答が導ける問題ではなく、疫学・保健統計の知識を用いて正答肢を導けるような問題の構成が必要であると考えられた。

今回の問題分析の結果、フォーカスインタビューの結果から、保健師国家試験においては、以下の 4 点が課題であると考えられた。

第一に、エビデンスのある知識を基に提示する情報と内容を吟味し、魅惑肢を含む選択肢を入れるよう改善することである。状況設定問題であるにもか

かわらず、状況文がなくても解答できる単に知識を問う問題が散見された。保健師教育において、虐待やDVなど個人・家族に対する健康危機に対応できる能力と、システム構築を中心的に担える能力を備えた保健師の育成が課題であることが指摘されており（全国保健師教育機関協議会，2018）、その実践能力を問うためには、保健師の問題作成においては、個人・家族・地域などの複数の情報を含めた具体的な状況文を作成することが重要である。

第二に、保健師の専門性として何を問うか出題の意図を明確にする必要がある。保健師の基礎教育レベルからは逸脱していないが、実習では学生が等しく体験していない問題が一部含まれていたが、地域の実情により、一部の地域では保健師が実践していない活動があることや、保健師ではなく他職種が実践している活動があることは少なくない。学生は必ずしも実習で体験することができない実践があると思われるが、すべての自治体で保健師が等しく実践しているかどうかを基準にするのではなく、国の法制度や対策に基づいて保健師の実践能力を問うための問題として適切であるかを基準に考える必要がある。自治体によっては、保健師が実施していない現状があっても、教科書等に基本的な事項として記載されていれば、保健師教育課程で等しく学生に教授することで学生の学びを担保することがむしろ必要であると考えられる。

第三に、保健師活動の実践知であるガイドラインや報告書などを根拠とした問題作成を検討することである。必要な基礎的知識の根拠が、一般に広く認められた知識や手順である問題が多く、事実や研究的に確かめられたエビデンスがある知識を根拠にする問題が少ないことが明らかになった。正答肢の直接的なエビデンスが必ずしも教科書に見出せないことから、結果として、状況を判断しなくても知識があれば解けてしまう難易度が低い問題とせざるを得ない実態があり、エビデンスの明確さという観点からは問題作成の限界があると思われる。エビデンスを蓄積しつつ、一方では、研究的に確かめられたエビデ

スでなくても、保健師の活動の蓄積である報告書や実践のガイドライン等を根拠に問題を作成してことも検討する必要があると考える。

第四に、状況設定問題において、保健師の実践能力を問うための出題形式の検討が必要である。佐伯らは、保健師の専門職務遂行能力は、「対人支援能力」と「地域支援および管理能力」の2つの因子から構成されていると報告している（佐伯和子，2003）。国家試験出題において、「対人支援能力」と「地域支援および管理能力」の2つを問う問題を想定すると、個人のアセスメントと地域のアセスメントの要素を問題に含めないと正答を導けない可能性がある。看護師等養成所の運営に関する指導ガイドラインにおいて「保健師の技術については、助産師や看護師のテクニカル・スキル（手技）としての技術とは性質が異なり、実践能力と切り離して表すことが難しい」とされ、「保健師の技術は広範囲であり、大項目や中項目のみならず、小項目の中にも含まれている。実際の保健活動では、個人や家族、地域（集団／組織）の状況に応じてそれらを複数組み合わせ提供する」と明記された（厚生労働省，2019）。これらを踏まえると、グラフやデータ・表を状況文に記載することで文字数は増加し、学生が読解するための時間が必要となることから、設定された時間では回答できない可能性がある。そのため、保健師国家試験問題においては、出題形式を変えるなどの方法により、複数の情報から判断し、時間をかけて知識を統合して解答する問題の作成が望ましく、保健師の実践能力を問うための出題形式の検討が喫緊の課題であると考えられる。

## 5. 結論

良問は改善問題と比較し、全ての問題で出題の意図が明確で、難易度が適切であり、タキソミーⅡ以上の割合が高かった。一方で、正答肢・誤答肢いずれにおいても、必要な基礎的知識の根拠は教科書に記載されているものの、エビデンスがある知識ではない広く認められた知識や手順等であることなど、出題形式、出題内容などを総合的に評価すると、良問と

言える問題はなく、すべての問題に改善の余地があると考えられる。今後への提言として、保健師の実践能力として何を問うのかという出題の意図を明確にし、エビデンスのある知識を基に提示する情報と内容を吟味するとともに、保健師活動の実践知であるガイドラインや報告書などを根拠とした問題作成や保健師の実践能力を問うための出題形式の検討が必要である。

## 6. 文献リスト

・医道審議会保健師助産師看護師分科会(2016) 保健師助産師看護師国家試験制度改善検討部会報告書.

URL:<https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10803000-Iseikyoku-Ijika/0000115632.pdf> (検索日: 2020年3月31日)

・厚生労働省医政局看護課(2019) 看護基礎教育検討会報告書.

URL:<https://www.mhlw.go.jp/content/10805000/000557411.pdf> (検索日: 2020年3月31日)

・佐伯和子, 和泉比佐子, 宇座美代子, 高崎郁恵(2003). 行政機関に働く保健師の専門職務遂行能力の測定用具の開発. 日本地域看護学会誌, 6(1), 32-39. doi:10.20746/jachn.6.1\_32.

・全国保健師教育機関協議会(2018): 平成29年度厚生労働省医政局看護課看護職員確保対策特別事業, 保健師学校養成所における基礎教育に関する調査報告書.

URL:<http://www.zenhokyo.jp/work/doc/h30-kisokyouiku-chousa.pdf> (検索日: 2020年3月31日)

表6. 保健師 フォーカスグループインタビュー結果

設問					必修問題・状況設定問題共通					
No.	第○回	午前午後	問題番号	「良問」「改善」の別	①出題の意図は明確か	②難易度は適切か	③正答肢を選ぶ、あるいは誤答肢を除くために必要な知識について根拠は明確か	④設問は臨地において必要な知識を問う問題となっているか	⑤看護基礎教育の教授内容から逸脱していないか	⑥改善すべき内容と具体的にどのように改善したらよいか
1	103	午前	41	良問	・災害発生下のフェーズに応じた保健師活動を問う問題なので、意図は明確で理解できる。	・難易度は低い。	・発生30分後の救護所の問題なので、状況を十分に理解しなくても正答肢を選べる。多くの学生は3(正答肢)を選ぶと思う。 ・状況を判断しなくても、一般論で解答できる。 ・状況と設問を切り離しても成り立つ問題。	発言なし	・この状況があるからと、一般論で優先順位を付けことは難しい。 ・必要な知識に関する根拠は、フェーズごとによっていろいろ変わる。 ・学生の実習時の経験等により差が生じる。	・小学校を使うのだから、その部屋を管理するとか、養護教諭に連絡して、その部屋にある備品を使うとか。
2	103	午前	42	改善問題	・災害発生下のフェーズに応じた保健師活動を問う問題なので、意図は明確で理解できる。	・難易度は低い。しかし回答が迷う。 ・2と4で迷う。1週間後なので、町外への避難者の安否確認を行うと避難所の要援護者の搬送先を検討すると迷う。難易度ではなくて、回答するのが難しい。 ・3と4で迷う。活動が活発な自治体であり、保健推進委員さんが行うところもあり、保健師が地域のリーダーの人に声をかけることをあるので迷った。 ・タキノミーⅢにはなり得ていない。	・状況を十分に理解しなくても、また、単問でも回答できる。 ・状況が難しい。 ・難易度が高いとか低いとかではなく、選択に迷うので、難易度としては判断が難しい。 ・フェーズの問題としては良い問題だと思うが、選択肢が難しい。	・避難所のことを出しながら、問うているのはA町の保健師の活動なので、広がっている。町外の安否確認と避難所の人の搬送先が入っていて避難所の活動ではない。	・学生の経験により差が生じる。 ・災害では臨機応変の対応が必要となる。その中で優先順位は難しい、魅惑肢が強い。 ・体験や実習体験、教授内容に左右される。 ・避難所で何をすべきかの選択肢を並べて勉強したことで回答する。 ・必要な知識に関する根拠は、フェーズごとによっていろいろ変わる。	・例えば徐々に体力の衰えとか、徐々に避難所の問題が長引くほど健康を害する人や持病が悪化する人が出たことを予測できれば、4(正答肢)が妥当だと思われる。 ・自治体の活動が活発となっているので、保健推進委員さんが介護予防を行うこともあり、地域のリーダーの人に声をかける内容も検討する。 ・避難所での保健師の役割に特化して、処置なのか、介護予防なのか、心のケアなのか、保健師しかできないものにする。 ・避難所以外の人が混ざっているから優先順位がつけにくい。
3	103	午前	43	改善問題	・災害発生下のフェーズに応じた保健師活動を問う問題なので、意図は明確で理解できる。	・難易度は低い。	・状況を十分に理解しなくても、また単問でも回答できる。 ・最も適切と問うているが、自治会の活動が活発とあるので、おのずと選択肢は3を選ぶと思う。また、最も適切と問うているが、適切ではない選択肢もある。 ・設問の状況と選択肢が乖離していると思う。	発言なし	・学生の経験により差が生じる。 ・必要な知識に関する根拠は、フェーズごとによっていろいろ変わる。	発言なし
4	103	午前	52	良問	・状況設定文に「市内の15か所の保育所との連携システムをどのように構築していくかを検討することになった」と記載しているが、連携システム構築のことを問うておらず、意図が異なっている。	・「対応困難な児に関する保育士からの市保健師への相談が増えている」ことを解決するために、連携を強化するのが、計画を策定する中で強化するのがわかりにくい。システム構築ありきではなく、まずは事業や対策の評価を問うべきである。 ・素直に読み取ると、「保健師が最初に取り組むこと」はシステム構築のための現状把握であり、正答肢にたどり着く。	・消去法で解答できる。	・保健師にはシステムの構築は求められている部分なので、実習等で事業が出来上がるプロセスを聞く機会を作ると学生が理解できる。 ・実習の中で連携についてをテーマにした学生は、保育所や教育機関に話を聞きに行き、連携システムをどう構築するかを実習し、全体報告会で共有している。	・状況設定文に、過去の保育園からの問い合わせ件数とか、問い合わせの相談内容の特徴とかを盛り込むと、出題意図である計画策定やシステム構築につながる。	
5	103	午前	53	良問	・状況設定文に「市内の15か所の保育所との連携システムをどのように構築していくかを検討することになった」と記載しているが、システム構築3カ月後の話で、連携システム構築のことを問うておらず、意図が異なっている。 ・既存に母子保健計画があり、新規事業の計画の位置づけを問うのであれば5が正解肢だが、「母子保健計画の策定にあたって」という状況設定文があるので、正解肢の5にたどりつかない。 ・出題の意図が状況設定文と設問と異なる、良く見えない。	・設問をよく読むと選択肢に迷うが、消去法では正解肢にたどり着く。 ・理解していないでも答えられる。 ・システム構築の評価を3カ月という短期間では行わない。そのためここでいうシステム構築が何であるかが不明確であるため、学生は正答肢に迷う。 ・「事業を計画するにあたり」検討することなので、5の「位置づけ」と1の「事業評価の時期」も正答ではないかと考えた。	・消去法で解答できる。	発言なし	発言なし	・設問自体、この2問のあいだに、もう1つあっていい。 ・問題文の「保育所との連携システムの構築に取り組んでから3か月が経過した」という文章が、システムができて、それが動き出して3カ月なのか、システムを作ろうとみんなで話し合い始めて3カ月なのか不明確なので、それが明確にわかる文章にすると良い。 ・1問目が状況把握とすれば、その状況に対して課題が抽出されて、その改善の事業を作るにあたっての何を問う方がわかりやすい。こういう問題があって、こういう事業を取り組むことになって、話し合いをするが、どこからやればいいのかと聞かれる方が分かりやすい。
6	103	午後	42	改善問題	・ネグレクトを理解しているかどうか。	・簡単。 ・不登校かどうかの判断が難しい。	・ネグレクトを理解しているかどうかだけなので。 ・年間30日以上欠席を不登校とすると、1か月に4日欠席するのは不登校と判断できるのではないかと？そう考えると不登校と迷うので難しい。	発言なし	・ネグレクトは小児や精神でも教えている。	・ネグレクトを選択させるのでは簡単すぎるのもっと問題をひねった方がよい。 ・不登校ではないと判断できるためには1か月に2日以内の休みがよいのでは。 ・全体的にもっと、リアリティが欲しい。
7	103	午後	43	良問	・情報の取り扱いをどこまでやって良いかを問う。 ・いくつかの要素を見抜けるか。	・指針は教えていない。	・正解4のエビデンスとなる「学校及び保育所から市町村または児童相談所への定期的な情報収集に関する指針」を教えていない。 ・1.2は常識的に考えて除外できる。	発言なし	・もっと緊急性があるケースのようにみえるが、書面でよいのか疑問が残る。	・危機的な状況ではないことがわかるように、問題文に「緊急の対応は必要ないことを確認した」などがあるとよい。 ・「対応として」は多様な意味が含まれる。～の指針にそってなど、条件を限定した方がよい。 ・選択肢1は否定文なので、肯定文にしたほうがよい。

表6. 続き

設問					必修問題・状況設定問題共通					
No	第○回	午前午後	問題番号	「良問」「改善」の別	①出題の意図は明確か	②難易度は適切か	③正答肢を選ぶ、あるいは誤答肢を除外するために必要な知識について根拠は明確か	④設問は臨地において必要な知識を問う問題となっているか	⑤看護基礎教育の教授内容から逸脱していないか	⑥改善すべき内容と具体的にどのように改善したらよいか
8	103	午後	44	改善問題	発言なし	・選択肢2が不正解の理由がわからない。	・「児童を抽出する」という問題は不適切なものは。 ・選択肢4の食生活調査を悠長にやっている時間があるのか疑問。	発言なし	・緊急時なら調査をやるのではなく、もっと迅速に情報把握をする必要があるのではないかと。 ・「物忘れが多くなり」と書いてあるのになぜ2が正答ではないのか？	・問題は、「学校の対応として養護教諭が提案すべきことは何か」として、選択肢4は「児童への食生活調査」ではなく、「朝ご飯を食べるのか担任が把握する」など、もう少し緊急に対応すべきでないような表現にし、「忘れ物」は削除する。 ・緊急な対応が求められるので、抽出や調査ではなく、すぐに養護教諭が主体で何を行うかを考えられる問題にした方がよい。
9	104	午前	41	改善問題	・出題の意図は普通に伝わる。 ・出題の意図はわかりやすい。	・演習や実習で十分教授されていないので、難しい設問である。 ・シミュレーションや事例検討していないので、状況設定が難しい。	・消去法では正答肢にたどり着く。	・今後DV等の複雑な問題への対応を増やしていきたい、保健師の実践能力として重要であり、必要な知識を問うものである。	・知識としては講義で話すが、DVのことを事例演習やシミュレーション等で行っていない。 ・実習でも教授してもらえる機会がない。	・「ふすま」などが分からない学生がいるので、今の一般的な住宅の設定の方がよい。
10	104	午前	42	良問	発言なし	・〈DV〉のスクリーニングの一般問題の出題としては良いかと思うが、状況設定問題としては難易度が高い。	発言なし	発言なし	発言なし	発言なし
11	104	午前	43	改善問題	・出題の意図から考えて、正答肢が2であることが疑問である。 ・本人自身が初めてこのこと(DVの状況)を語ったことで、その後必ず振り返りして罪悪感が戻ってくるので、あなたが悪いわけではないというように逃さずやることが保健師の対応だが、それをこの国家試験で問うのはいつも難しく、どこからかという医学的な口ジックが説明しやすい問題しか出せない国家試験の今のスタイルの限界がある。	・厚労省より複数解答と出されており、学生が判断に迷うということであるため、難度は高いと思われる。 ・受診の緊急性を判断したうえで、DVはどうかを説明するのが初期対応ではないかと思う。 ・2ではなく、保健師としての対応を問う正答肢にする難易度が高い。	・保健師としての対応の正解肢がない。医療機関受診は重要であるが、保健師としての対応としては思えない。DVに対する、告白したことに対して罪悪感を持たないようにするとかついでに正解にすべきである。 ・保健師の実践能力を問うのであれば、受診は前提に、今回の訪問の約束や継続支援していくことを設問や選択肢に入れるとよい。	発言なし	・看護師資格がある学生なので、継続的な家庭訪問を半年以上実施している。DVではないが精神疾患のある母親や、若年妊娠の事例に訪問しており、課題としてDVを想定する実習ができていない。 ・今の教授内容では十分ではないが、将来保健師としてこのような複雑な問題に対応することを考えると問題としては適切である。	・保健師の実践能力を問うのであれば、「相談相手がいらない」とか、「受診してパートナーにまた殴られるのが怖い」というような、アセスメントできるような情報を加えるとよい。
12	104	午後	39	改善問題	・集団感染の危機管理を意図するのであれば、そこ(集団感染事例を疑う、あるいは食中毒との鑑別をするための調査をしなければいけないという)を思考して答えられなければいけない。 ・設定が2つある。 ・単一暴露を想定しているのか、二次感染を想定されているのかが分かりにくい。	・集団の疫学調査とかの全体フレームが分からなくとも(枝間で)答えられる。 ・状況設定文がなくとも簡単に答えられる問題である。 ・食中毒関係はそこまでやっていないけれど、この3問は答えられる問題である。 ・集団に対する疫学調査の手法がそんなに理解できていなくても、解答にたどりつける可能性はある。	発言なし	・相談を受けた保健師の保健師が聞き取る情報で優先度が高いのはどれかとなったときに、初動の情報収集の視点を尋ねるものとしてはとてもいい問題である。	・富山県では、(保健所では)保健師は感染症の担当ではなく、獣医と薬剤師が感染症の担当なので、学内での講義、それから保健所での実習についても、初動のところは押さえることができていない現状がある。 ・保健師ももちろん対応しますが、直接ではないので、実習中は、そこまで具体的な話は聞けない。講義でも、結核関係はシミュレーションで結構やっているが、食中毒関係は、そこまではやってない。 ・学内で集団発生の疫学調査のシミュレーションをしている。 ・主に事例の演習では、特に結核を中心にやるので、食中毒だと感染症は、こういった国試の過去問なんかをやりながら、こういうときはこういふ対応をしていくんだよ、というふうなことをする。 ・自県はこうではないけれども、スタンダードでは保健師が関わるといふような教育をされてるかどうかという点ではかなと思うのですが、現状に合わせていくと、やっぱり運用の仕方はいろいろあると思うので、やはり、教育する方のスタンダードはどうなのかということになる。	・No.39の問題だけ見たときに、これを食中毒というふうに捉える学生も出てくる。どっち(感染症か食中毒)なんだろうということで、答えが保育士のイベントの開催状況と、園児の欠席状況の2番と3番で、迷う学生が出てくる可能性はないかと思う。もう少し、何か状況設定文の中に入れてほしい。 ・選択肢の2と3で迷う。状況設定が十分に記載されていないために迷う。 ・全体のところではあるが、39番のところだと、やっぱり決め手が欠けると言うか、もう少し、優先度を定めるだけの根拠となる情報が必要ではないかと。 ・そのとき(保育所からの相談時)は、遊んだ欠席じゃなくて、現在何人欠席して、きょう登園してが具合の悪い人はいるか、症例定義をするための現状の把握をすると思う。それを抜いて、この選択肢の中から優先順位の高いものを選びたい問題であれば、そこが意図であればそうなんですけど、それだとあまりに簡単な設問に入らなかったら、状況の中に、現状はこうであることを確認して、追加して聞くこととして優先順位の高いのはどれかというふうになった方がいいのかも思わない。 ・(状況文に)定員80人、乳児保育を実施してはなくてもいい。 ・4人の園児が何歳児かと具体的に入るとおむつの処理とか生きてくるのかな。実際、保育士さんの手を通して感染拡大した事例はよくあるので、少し具体的に何歳児でまた増えてきたことになる。拡大の状況が分かると、それが兄弟だったりする場合もあるかと思う。そこも少し具体的にだ、状況設定文としてはいいのかなと思う。 ・39問は正解を見つけれなくて(学生は)困ると思う。 ・欠席者の情報しなくて、41番で汚物処理方法の指導にたどりつのが、難しい。 ・39問は優先順位を聞いているので、どれも聞くことだと思う。その中の優先順位を考えると、より優先されるのは事件の広がりを確認することだと思うのですが、それはここでは聞いていない、選択肢に挙がっていない。 ・現実性で言うと、初動のときはあらゆる調査を網羅的に情報確認してしまうので、ここに挙がってる選択肢プラス、それ以外も聞くだろうと思う。(同時に聞く)

表6. 続き

設問					必修問題・状況設定問題共通					
No	第○回	午前 午後	問題 番号	「良問」 「改善」 の別	①出題の意図は明確か	②難易度は適切か	③正答肢を選ぶ、あるいは誤答肢を除くために必要な知識について根拠は明確か	④設問は臨地において必要な知識を問う問題となっているか	⑤看護基礎教育の教授内容から逸脱していないか	⑥改善すべき内容と具体的にどのように改善したらよいか
13	104	午後	40	改善問題	発言なし	発言なし	発言なし	発言なし	発言なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・40問はAくん、Bくんのご家族に連絡を取って、その疫学調査もすると思う。そのことが触れてなく、保育園の集団の話だけの話なのが分かりにくい。この届け出を受け、保健所の対応の優先順位は、その関係の家族に電話して、まずはそこに訪問に行くだろうと思う。</li> <li>・(40問は)保健所の対応はほかにもあり、それ(保護者への対応)が抜けている。保育園への対応というところ限定しないと、この内容、選択肢では不足している。</li> </ul>
14	104	午後	41	改善問題	発言なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(41問は)消去法で多分いけます。</li> </ul>	発言なし	発言なし	発言なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席者の情報がなく、41番で汚物処理方法の指導にたどりつのが、難しい。</li> <li>・40番と41番のあいだに疫学調査結果がないと、難しい。あるいは、登園をして下痢をしている子どもたちもいるというのがないと、対応策が難しいのではないかな。</li> <li>・そこ(疫学調査)を経て問題を解いてもらうのが、保健師的には重要なんだと思う。</li> </ul>
15	104	午後	45	良問	発言なし	・簡単。	・知識があれば解ける、単問でもよいのでは。	発言なし	発言なし	発言なし
16	104	午後	46	良問	発言なし	・簡単。	・知識があれば解ける、単問でもよいのでは。	発言なし	発言なし	発言なし
17	104	午後	47	良問	発言なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題あり。</li> <li>・どうして3が正解なのかわからない。</li> <li>・健康推進委員はどの地域にもいるわけではない。むしろ自治会役員の方がよいのでは。</li> </ul>	発言なし	発言なし	発言なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民からの声を活かすのなら受診率向上を目指した保健師活動に関する選択肢を選ばせてもよいのではないかな。</li> <li>・あるいは組織と一緒に健康課題を考える設定にするなど。</li> <li>・住民の生活があまり入ってきていないので、農業が中心なら季節との影響も問題にいれるなど。</li> </ul>
18	105	午前	47	改善問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意図が分からなかった。</li> <li>・在宅医療と介護の体制づくりであったとしても、必要病床数の推計に保健師が関与するのかわからない。</li> <li>・算数ができれば回答が可能であり、保健師の能力を問う問題であるか疑問。</li> </ul>	・難易度は低い。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数ができれば回答が可能。</li> <li>・状況設定がなくても回答可能。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数値の計算だけでは必要ない。</li> </ul>	発言なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数値の高低を計算した結果、それが意味することの判断や解釈を問うとよい。</li> </ul>
19	105	午前	48	良問	・分かりづらかった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教授されているか否かにより難易度に差があるのではないかな。演習などの経験の有無に影響される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・状況設定がなくても回答可能。</li> </ul>	発言なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療体制の整備は教科書に記載されていても、教えるのはキーワード程度であり、ここまで教えていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な改善案まで示すことはできないが、地域のデータから計画を策定することは保健師の大事な能力であるので、状況設定と関連させたり、データを根拠とした判断を問うとよい。</li> <li>・必要病床数推計値を実情に反映するために必要な情報の優先度を考えさせるのであれば理解できるが、調査票を送付するアンケートの項目に優先度の高低を考えることは実際的ではない。「重要視する項目」などであればよかったかもしれない。</li> </ul>

表6. 続き

設問					必修問題・状況設定問題共通					
No	第○回	午前午後	問題番号	「良問」「改善」の別	①出題の意図は明確か	②難易度は適切か	③正答肢を選ぶ、あるいは誤答肢を除くために必要な知識について根拠は明確か	④設問は臨地において必要な知識を問う問題となっているか	⑤看護基礎教育の教授内容から逸脱していないか	⑥改善すべき内容と具体的にどのよう改善したらよいか
20	105	午前	49	良問	・分かりづらかった。	・教授されているか否かにより難易度に差があるのではないかと(教えていない場合もある内容である)。	・状況設定がなくても回答可能。	・現実的に一保健所管内の検討課題としては、選択肢2か4が妥当であると思う。しかし、保健所保健師と市町村保健師が一室に会して検討することは、保健師活動に関係あることを検討するのが現実的であるので、正答は選択肢4が自然である。	・医療体制の整備は教科書に記載されていても、教えるのはキーワード程度であり、ここまで教えていない。学生は聞いたことがあるキーワードを選択肢してしまっているのではないかと。	・設問文で「切れ目ない」と問うていながら、正答肢が医療側だけになっているのは片手落ちであるように思う。地域の実情との両方を考える必要があるため、正答肢は2つとし、地域側(介護側)の選択肢を2つ設定するとよかった。 ・在宅医療と介護の提供体制の構築を質問しているため、正答肢を1つ選ぶなら、介護の選択肢4に魅惑の要素があるとよかったのではないかと。
21	105	午前	52	良問	発言なし	・簡単。	・知識があれば解ける。	発言なし	発言なし	・修了者が低下していることへのアプローチなどを具体的に問う方がよいのでは、知育づくりなどの問題にして欲しい。
22	105	午前	53	良問	発言なし	・簡単。	・知識があれば解ける。	発言なし	発言なし	発言なし
23	105	午後	41	良問	・精神障害者の生活と保健活動を理解するという意図は明確。小項目の精神障害者の生活の理解と社会復帰、地域生活支援への働きかけ、自立支援をねらったと思う。 ・睡眠も服薬ができていないので、問題がでていると考えると、根本的なところは服薬であり、焦点を当てて、情報収集するところを求めた問題だと思う。	・回答が状況より、正答肢とわかってしまう。 ・看護師の知識で簡単に答えられる。	・「予定残数以上の内服薬が出てきた」との情報があるので、正答肢の服薬を選ぼうと思う。その情報がなければ、選択肢を全て確認することとなり、薬の情報が無い中では、正答肢を選びにくい。 ・選択肢すべてを確認すると思う。 ・強い臭気がしたという情報があるので、清潔を選ぶこともある。 ・薬を飲んでいなくて困るのは、2(睡眠)を確認すると思う。 ・「確認」という言葉より、さらに何かがあると考えてしまう。	発言なし	・今の状況だけではなく経過を見ながら判断するという保健師らしい事例の捉え方を示して、よい設定だと思う。	・予定残数以上の内服薬が出て、調子が悪いのは薬を飲んでいないからだ判断して終わらないで、何でこの人は母親の死亡後、薬が飲めなくなったのか、その事情をきちんと掘り下げて聞くことが必要なので、一時的な確認はしているが、さらに確認が保健師としては必要だところをねらって「服薬」にしているとと思われる。選択肢の工夫があると思う。 ・服薬に関するいろいろな質問を選択肢にすることも考えられるが、難しい。 ・状況設定文の順番を変える、服薬のことを間に入れるだけでも印象が変わる。 ・服薬と落ち着かない点もポイントだとしてはどうか。 ・Aの薬は母親が管理していたという点も服薬の選択肢を選ぶことになる。きっかけが明らかすぎる。 ・正答肢を選ぶように、状況を書きすぎていると思う。
24	105	午後	42	良問	発言なし	・選択肢を迷う。3(家族会)と4の(受診同行)とで。	・3(家族会への参加)と正答肢の4(受診同行)で迷う。医師や保健師からの知識を得るよりは、仲間から生活とか病気のことを教えてもらうことも必要なので、迷う。 ・看護師と保健師の判断で迷うところが良い問題だと思う。	・本人の病状や家族の認識や、対象者、家族の状況に合わせて、今保健師が何を提案しなくてはいけなさを考えるよい問題だと思う。 ・精神科看護だけを考えると精神障害者の家族への参加を勧めることになると思われるが、保健師として選択すると、訪問した家族も同等に、病院に足を運ぶことで、お父さんも治療の対象になるかもしれない、そういう意味では現状の打開は一緒に受診が最も適切だと思う。	・最も適切なのはどれかでは、受診、父親の息抜き、家族会も必要だと考えられるが、今、すべきことを考えさせる問題で、良い問題だと思う。 ・看護師と保健師の判断で分かれる問題だと思う。看護師は3(家族会)を選択し、保健師は4(受診同行)を選択する。 ・家族会があったら、会に紹介するとか参加を勧めるというのが決まり文句ではなくて、対象者や家族の状況に合わせて保健師が提案している。 ・家族会も統合失調症を支える大事な支援であるが、仲間となる手前のアプローチが必要だと思う。しかし、最も適切なのは問う問題だから。 ・学生は精神看護の実習から、患者のために父が何をすべきかで、家族会を選択する。	発言なし

表6. 続き

設問					状況設定問題のみ				
No	第○回	午前 午後	問題 番号	「良問」 「改善」 の別	⑦選択肢が出題 の意図の原則そ のものとなり、個 別状況が不要で はないか	⑧正答肢が状況 に関する知識なくとも 選択できるように なっていないか	⑨設問文は連問で はなく単問の形式 で実践能力を評価 できているか	⑩状況文は現実的かつ多すぎではないか	⑪問題の情報量と回答に要する時間の 関係は適切か
1	103	午前	41	良問	③に含む	③に含む	発言なし	・地震が発生して30分後に開設された救護所は誰が開設したのか。 ・保健師の物品の準備は、どこから準備するのか。小学校に救護物品が置かれていたのか。 ・5キロだと乗り物がないと行けないのではないかと。車で行くことができたのか等、状況が現実的ではなく、ナンセンスと感じてしまう。 ・救護所で小学校を使うのなら、保健室を使うことが多く、そのため、養護教諭に連絡を取る2(誤答肢)を選択するのではないかと、スキルの高い人ほど、実習を多くやった人ほど間違え問題と思われる。	発言なし
2	103	午前	42	改善問題	③に含む	③に含む	発言なし	・1週間たっているのに要援護者の搬送先をこの時点で検討するのか。 ・高齢者の介護予防は、健康推進委員が、自治体の活動が活発というなら行ってもいいのではないかと。保健師でなくてもよいという判断ができるかどうか問われている。勉強した学生なら、介護予防は保健師でなくてもできるが声かけは保健師が必要があり、これも保健師活動だと思ふ。 ・搬送先の検討が保健師しかできないか、医療チームの方が知っているのではないかと。 ・町の職員が1週間後ぐらいから町外に行った人の確認をしたところもあれば、しなかったところもあると思うので、実習で聞いていたらその状況を選ぶと思う。 ・地理的なこととかによっても一緒ではない。特に町外に避難すると言っても町外との距離も関係する。どんな町を想定するかで回答も変わる。	発言なし
3	103	午前	43	改善問題	③に含む	③に含む	発言なし	・自宅5割、仮設住宅4割、1割は避難所となっているが、医療機関とか施設に移った人はいるのか。また、町外への避難(問題42)や町外施設に移った人と選択肢にあるので、問の設定が現実的ではない。 ・役場から5キロ離れたところで、選択肢4の運動教室を行うのか、ナンセンスな内容だと思ふ。	発言なし
4	103	午前	52	良問	③に含む	③に含む	発言なし	・「保健師が最初に取り組むこと」はシステム構築のための現状把握であり、状況文は、現実的な問題とはなっていた。	発言なし
5	103	午前	53	良問	③に含む	③に含む	発言なし	・システム構築の評価を3カ月という短期間では行わないため、現実的でない。 ・「事業を計画するにあたり検討することなので、5の「位置づけ」と1の「事業評価の時期」も正答ではないかと考えた。	発言なし
6	103	午後	42	改善問題	③に含む	③に含む	・全体的に、どういうところに実践能力をアセスメントできるのかが問題から読み取れなかった。 ・「新しいお父さん」という説明は設問に関係なく、学生が先入観を持ちやすいのではないかと。	・全体的に保健師の問題は、様々な情報から取捨選択するので、問題文はもっと長くてもよい。 →あまり長いと、関係ないところはカットするように言われる。	
7	103	午後	43	良問	③に含む	③に含む	発言なし	・ネグレクトへの対応が書面的ように事務的な対応でよいという印象を学生に与えてしまわないか?	発言なし
8	103	午後	44	改善問題	③に含む	③に含む	発言なし	発言なし	発言なし
9	104	午前	41	改善問題	③に含む	③に含む	発言なし	・1歳児健康診査を行っている自治体は少なく現実的ではない。	発言なし
10	104	午前	42	良問	③に含む	③に含む	発言なし	発言なし	発言なし
11	104	午前	43	改善問題	③に含む	③に含む	発言なし	発言なし	発言なし

表6. 続き

設問					状況設定問題のみ				
No	第○回	午前/午後	問題番号	「良問」「改善」の別	⑦選択肢が出題の意図の原則そのものとなり、個別状況が不要ではないか	⑧正答肢が状況に関する知識なくとも選択できるようになっていないか	⑨設問文は連問ではなく単問の形式で実践能力を評価できているか	⑩状況文は現実的かつ多すぎではないか	⑪問題の情報量と回答に要する時間の関係は適切か
12	104	午後	39	改善問題	③に含む	③に含む	<p>・40問で、腸管出血性大腸菌の届けが提出され、39問で迷った場合、解答が明かされる状態になる。そういう意味ではよくない。</p> <p>・腸管出血性大腸菌で届け出があっても、原因経路を考えると単一暴露の食中毒の可能性はあるので、この40問を読んでも、まだ感染症か食中毒か分からない。ここから調査をする段階なので、39問の解答は、やっぱり分からない。(影響ないということでは)</p>	<p>・この状況設定、あまり状況把握をしなくても、それぞれの枝問に対応した回答ができてしまう。</p> <p>・現場では、保育所からの相談よりも医療機関からの届け出が入って、それで保育所に連絡するという初動の対応の方が多い。これだけ時間を空けて、保育所からまず相談を受け、次に立ち入り調査をし、その後、また汚物処理方法の指導をしますというのが、現実的ではない。立ち入り調査に入ったときに、それら全部押さえるので、この設問自体が違和感がある。</p> <p>・保健所の立場なら欠席状況だけでなく、職員の健康状態、欠席まではいかないけども有症者の発生の状況、名簿の提出、給食行事など関係の書類を準備をお願いする初動の対応がある。</p> <p>・現実とは違うものになっている。</p> <p>・東京は保健師が初動も動き、多くが職員と一緒に動く。医療機関からの届け出以前に、集団で保育所の中で嘔吐、下痢症があれば、保健所に集団発生ということで届け出が入る。現場は、食中毒か感染症課の判別のために、両方がチームを組んで初動するのが、大抵のパターンである。</p> <p>・この4人欠席して、新たに4人で、2人が重症だったというところより、多分、4人、4人で続けて入るので、そこで保育所からは相談が入ると思う。その段階で初動をすと思う。この流れを読んでいると、夕方、多分、保育所からの連絡は欠席が分かった段階なので早い時間で、そのときは何か電話で情報の確認をして、夕方、医療機関からの届け出があったので初動してるみたいになってくる。そこは初動のタイミングとしてはあまり現実的ではない。多分、最初の保育所の相談があったときに、電話で概要を確認したうえで行くと思う。</p> <p>・医療機関からの届け出で保健所が(関わるといのが)一般的である。</p> <p>・集団施設は集団の下痢症、感染症の患者発生があった場合は、保健所に連絡をすることが通知も出ている。0-157は、毒素確認まで検便してから結果が出るまで4~5日かかってしまう。病原体特定されて確定診断が出る方が遅れるので、先に集団が発生している場合は、施設からも(連絡が)あると思う。</p> <p>・(状況文?39問の問題文?)事件規模を聞くと簡単すぎるっていうことがあるので、それを外すということは、よく作問的にやる。</p>	発言なし
13	104	午後	40	改善問題	③に含む	③に含む	発言なし	発言なし	発言なし
14	104	午後	41	改善問題	③に含む	③に含む	発言なし	発言なし	発言なし
15	104	午後	45	良問	③に含む	③に含む	・状況設定を読んで、解ける問題にしたい。	発言なし	発言なし
16	104	午後	46	良問	③に含む	③に含む	・状況設定を読んで、解ける問題にしたい。	発言なし	発言なし
17	104	午後	47	良問	③に含む	③に含む	発言なし	<p>・家庭訪問では受診率の低い理由をきいているのに、問題は健康づくりの活性化を検討する者を選択させており、問題文と選択肢があていない。</p> <p>・受診率が低いなら訪問よりも、はがきや電話で受診勧奨するなど効果的。</p>	発言なし
18	105	午前	47	改善問題	③に含む	③に含む	発言なし	発言なし	発言なし
19	105	午前	48	良問	③に含む	③に含む	発言なし	発言なし	発言なし
20	105	午前	49	良問	③に含む	③に含む	発言なし	発言なし	発言なし
21	105	午前	52	良問	③に含む	③に含む	・もう少し考えさせる問題にして欲しい。	・人口が小規模な問題が多い、大都市圏の問題設定もあるなど、多様な地域の問題にして欲しい。	発言なし
22	105	午前	53	良問	③に含む	③に含む	発言なし	・市の保健師がサラリーマンの特定保健指導の実施率はわからないのではないかと？国保の人を対象にするならそれに合わせた問題にする必要がある。	発言なし
23	105	午後	41	良問	③に含む	③に含む	<p>・状況を確認なので、服薬として、1人で飲んでいるのか、いつから飲まなくなったのか、この1カ月間の経緯を全部聞くのかと思った。清潔に関しては、解決は入浴だけで、服薬に関しては解決方法を考えるために確認することがたくさんあるという前提で聞いていると思う。1カ月さかのぼって可能な限り確認するという意味だと思ふ。</p>	<p>・確認する時点、どの時点でのことを問うているのかわからない。</p> <p>・訪問して何を確認するのか、状況設定文の中に、薬のことをこれだけ言っていたら、薬を選択する。</p> <p>・息子さんのことに関心のない父親が、よく保健センターに電話したと思ひ、違和感がある。</p> <p>・精神障害者手帳を持ってれば2年に1回更新で、障害福祉課にいくと思う。自立支援医療を受けていることを考えると、保健センターより市役所の障害福祉課の方が、家族にとって相談場所としてわかりやすいように設定することも必要ではないか。障害福祉課に相談があり、保健センターに連絡がきた等。</p> <p>・父親が眠れないと健診で訴えてこうなっているとか、父親が積極的にべらべらと話す設定に違和感がある。</p> <p>・継続支援の事例と思って読んだ。</p>	発言なし
24	105	午後	42	良問	③に含む	③に含む	・最も適切なのはどれかとの問いなので、全部適切な回答が並び、今、すべきことを判断させる良い問題だと思う。	・病状の説明を主治医から聞かないと、一般的な統合失調症のことを選択してもだめだと思う。	発言なし